はじめに

皆さん、大学生活は充実していますか。早稲田大学は、学生の皆さんの切実かつ適切な要望にできる限り応えて、快適な学習・生活環境を整備したいと考えています。そのためには、皆さんが大学の提供している環境についての満足度あるいは不満度を的確に知る必要があります。その一つの方策として、学生の皆さんにアンケートに協力いただいて、毎年「学生生活調査」を実施しております。今年も多くの学生の皆さんに多少面倒なアンケートに協力していただきました。この場を借りて感謝いたします。どうもありがとうございました。

私たち早稲田大学の全教職員は、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるように努力を続けています。しかし、一人ひとりが直接接する学生というのは、５万人の学生のうちのごく一部です。従って、その印象だけから学生の全体像を考えるのでは不十分です。その意味で、この「学生生活調査」は、早稲田大学の学生の全体像を知る唯一の貴重な資料となっています。実際、この「学生生活調査」は、これまでの大学の施策を反省し、今後の方針を策定する際にもっとも信頼すべき有益な資料として活用されています。

例えば、授業もオープン科目が増えるなか、当初は、その履修のために学生はあちこちの事務所に行かなければならないという不便さが「学生生活調査」で多くの皆さんから指摘されました。そこで、皆さんの学習サポートのワンストップサービスの場として誕生したのが７号館１階にある「早稲田ポータルオフィス」です。今は、ＩＴセンターの総合受付と窓口を一体化することで皆さんのＩＴ利用環境の支援も提供しています。

それから、2005年の「学生生活調査」で大学に対する工夫改善の希望を聞いたところ、事務所の窓口の対応の悪さが10.6％に上りました。大学はこのことを反省し、学生窓口サービス改善 WGを立上げ、2006年７月に冊子『早稲田大学における学生窓口サービスのミニマム・スタンダード』を発行し、その改善に努めています。

そして、奨学金への希望や不満が学生生活調査で浮かびあがったことをきっかけとして誕生したのが「創立125周年記念奨学金」です。この奨学金は、総額毎年６億円に上る大型でかつ返済の必要のない給付奨学金です。この奨学金の特徴は、各学部・大学院の実情に基づいて個別に運営されていることです。

さらに，オープン科目が増える中で授業と授業の間の時間が短すぎて，移動が困難であるという声に応えて，今年度からその時間を延長する措置をとりました。

このように「学生生活調査」は、早稲田大学が学生の皆さんの学習・生活環境の改善に非常に大きな力を発揮しています。

今年も、「学生生活調査」のまとめである『2009年度第28回学生生活調査報告書』を皆さんにお届けできる時期になりました。私たちはこの結果を真摯に受け止め、学生の皆さんの学習環境の向上に邁進する決意でおります。今年度は例年に比べ一年生の皆さんからの回答率が大幅にアップしました。皆さんも是非この報告書に目を通していただき、皆さんが感じたことを率直にお寄せいただければ大変ありがたいと思います。

資料の分析と執筆は、理工学術院 大河内 博（１章）、スポーツ科学学術院 誉田 雅彰（２章）、文学学術院 草柳 千早（３章）（４章）、社会科学総合学術院 横野 恵（５章）、法学学術院 久保田 隆（６章コラム）各先生にお願いしました。また、この報告書には入りませんが、専門職大学院調査の分析（別途、データ集・概要のような形で報告）を商学学術院 東出 浩教先生にお願いしました。末筆ではありますが、心より御礼を申し上げます。

2009年10月21日

学生部長　島田陽一